

# 5月実質賃金1.8%減

## 物価高 2カ月連続マイナス

厚生労働省が5日発表した5月の毎月勤労統計調査（速報、従業員5人以上）によると、基本給と残業代などを合わせた現金給与総額（名目賃金）から物価変動の影響を除いた実質賃金は、前年同月比1.8%減となりました。物価の上昇となり、前月（1.7%減）を上回った5月の現金給与総額は、前月（3.0%増）に続く高い伸びとなり、新型コロナウイルス感染拡大で経済活動の停滞が響いた2020年7月（1.8%減）以来の大きさ。5月の現金給与総額は、労働者1人当たり平均で1万7016円。基本給が中心の「所定内給与」が1.2%増え、残業代など「所定外給与」も5.5%伸びました。賃金消費者物価指数（持ち家の帰属家賃を除く総合）は2.9%上昇しました。エネルギーや食料品の価格上昇

実質賃金の落ち込み幅は

ルギーや食料品の価格上昇

した。